

## 新型コロナウイルス感染症の影響による財政状況を鑑み (仮称) 国際工芸美術館の抜本的見直しを求める決議

現在、新型コロナウイルス感染症は4月7日の緊急事態宣言以降、日本の経済を大きく圧迫し全国的な影響を及ぼし続けている。町田市においても多くの感染者が出ており、医療機関・保健所が対応に追われ、市民生活や市内事業者の生活も圧迫されている。

このような状況の中、町田市では今後も財政が危機的であり大規模な減収が見込まれる。それに伴い2021年度予算編成にあたり市民生活や市内の経済活動を支える施策を最優先することを前提に、取り組む重点事業を行政関与の必要性や緊急性、費用対効果が高い事業に限定するなど、事業の優先順位付けを行い、実施時期の見直しや事業の廃止、縮小など事務事業の抜本的な見直しを行うとしている。

(仮称) 国際工芸美術館計画をめぐっては当初令和2年度第3回定例議会で予算規模を提示するとのことだったが、新型コロナウイルス感染症の影響により基本設計は3か月の延長を余儀なくされており、いまだ実施設計に至っていない。

そして本計画を実施するにあたり、今議会の文教常任委員会で行政報告がされ、予算規模は(仮称) 国際工芸美術館整備工事に約28億5千万円、国際版画美術館・(仮称) 国際工芸美術館一体化工事約3億7千万円、そして体験型工房棟整備工事に約8億円と総額約40億円もの財政投資が必要であることが明らかになった。

また、町田市は国・東京都からの交付金などを申請しているが、現段階において企業版ふるさと納税や東京都市町村総合交付金まちづくり振興対策地域特選事業枠がどの程度財政投資額の負担軽減になるかを見通せる状況にはない。

また、予算総額に見合う費用対効果やその必要性、利用者や地域への説明不足など、いまだ市民理解を得られる段階ではない。この状況下で多額の財政投資を要する(仮称) 国際工芸美術館計画を計画通りに進めることは今後の財政状況を鑑み、今後の予算編成の判断基準にある「緊急性」に反するものであると言わざるを得ない。

よって上記状況を鑑み、(仮称) 国際工芸美術館計画については、実施時期の見直し及び規模縮小などの抜本的な見直しを求める。

ただし、原町田地域及び高ヶ坂地域より要望が出されている芹ヶ谷公園内の交通利便性を向上させる施策については、国際版画美術館内の通行手段とは別の計画を施し地域住民と共に早急な対応を進めることを重ねて求める。

以上、決議する。